

會 報

令 和 5 年 度

(第43号)

東京電機大学教職校友会

東京電機大学教職校友会 会報 第43号

CONTENTS

- 3 会報第43号に寄せて 会長 杉浦 文俊
- 4 特集 教育改革への取り組み
 - 4 東京支部 杉浦 文俊 (東京都立工芸高等学校)
 - 5 東京支部 渡邊 雄三 (日本工業大学駒場高等学校)
 - 7 福島支部 根本 純夫 (福島県立平工業高等学校)
- 9 令和4年度・5年度の活動について
- 10 令和5年度 顧問・役員・幹事一覧
- 11 令和5年度 教職校友会会員数
- 12 教職校友会会則
- 13 〈寄稿〉 隠^命者の夕暮れ
- 15 会費納入のお願い
- 15 編集後記

<表紙の題字「会報」は、初代学長丹羽保次郎先生の揮毫によるものです>

— お知らせ —

- *学校別の会員名簿は、個人情報保護の観点から掲載をしていません。
- *会員への問い合わせ先等必要な場合は一般社団法人東京電機大学校友会にお問い合わせください。教職校友会の定める「個人情報保護に関して」(平成17年制定)及び一般社団法人東京電機大学校友会の定める「個人情報保護規則」(平成30年制定)により対応します。
- *会員への当会からの連絡はご自宅住所宛を原則とします。住所変更、勤務先変更等がありましたら「一般社団法人東京電機大学校友会」にご連絡ください。

会報第43号に寄せて

東京電機大学教職校友会員の皆様には、日頃から本会の活動に御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

令和5年5月のゴールデン・ウィーク後に新型コロナウイルス感染症が2類から5類にカテゴリーが変更されるとともに、様々な活動がコロナ前と同等は言えませんが、回復してきました。本会の総会も昨年はオンラインをメインに開催しましたが、今年は対面形式をメインにして当日に千住キャンパスにお越し頂けない会員の皆様にオンライン配信を行いました。

今回のコロナ禍でオンラインでの開催によるメリットも運営側としては学びましたので、会員の皆様方との連携を更に推進すると共に本会が末永く続くために状況に応じて活用して行きたいと考えております。

さて、マスコミでは「教員のブラック化」が様々な角度から報道されています。教職の魅力が薄れ、各都道府県で教員採用試験の受験者数の減少や教員の病気による休職や退職により教職員定数が埋まらない学校が各地に存在するなど日本の教育が「人的」面でも非常に困難な状況に追い込まれています。

各地区で行われている「教員の働き方改革」の前進に期待をすると共に教壇に立つ現職の先生方と教職OBの皆様による「未来を担う人を育てる教職の魅力」を発信していくことが今後更に重要と考えています。

この歴史ある教職校友会の会員数は、現在は約1,200名以上となっています。本会の活発な活動が、日本の工業教育を始め理数教育の発展に寄与するものであると確信しております。どうぞ会員の皆様方のお力を頂けますようよろしくお願いいたします。

また、本会の目的は、創立当時と変わらず、大学と校友会とが緊密に連携し、相互の発展に協力し、会員の資質向上と親睦を図ることにあります。

毎年大学から示される「教職校友会枠指定校推薦制度」等に基づき、本会から将来有望な資質ある志願者を大学に推薦を行うなど、大学の募集・広報活動に協力して、今後も本会は大学、教職校友会相互の発展のために尽くしてまいります。

最後になりましたが、本会の運営に当たり、多大な御尽力を賜っております、校友会をはじめ幹事の皆様に、改めて御礼を申し上げます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

令和5年7月吉日

東京電機大学教職校友会
会長 杉浦文俊

特集 教育改革への取り組み

令和2年は教育改革の年といわれました。この年から知識・情報・技術が社会のあらゆる基盤となる「知識基盤社会」に向けて、「社会に開かれた教育課程」が始動しました。そしていま各校は社会や地域、生徒や保護者の期待に応えるべく様々な学校改革、教育改革を続けています。各支部・各校の取り組みの報告です。

東京支部

「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム」の本校での活用について（現状報告）

東京都立工芸高等学校 統括校長

杉浦 文俊

■ 実行プログラム策定の背景について

都立高校においては、平成9年度から「都立高校改革推進計画」に基づき、途中の見直しを含めて、中長期的な様々な取組、改革を実行してきた。

更に、東京都教育委員会は「東京都教育施策大綱」（令和3年3月）において「未来の東京」を生きる子供の姿として、「自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる」、「他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する」とした。

しかし、今般の新型コロナウイルス感染症が社会に与えたインパクトや不安定な国際情勢等など、日本社会だけではなく、都立高校の取り巻く状況も一層複雑化・多様化した中で、大綱で示した2点の実現に向けて都教育委員会は、東京都の目指す教育として「誰一人取り残さず、すべてのこどもが将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育」とした。

今回紹介する「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム」（令和5年3月）は令和6年度までの間に集中的に実施する施策であり、従来の長中期的な教育改革の施策ではなく、具体的にスピード感をもって実行するプログラムであることを御理解いただきたい。

その柱は「自ら未来を切り拓く力の育成」、「生徒目線に立った支援の充実」、「質の高い教育を実現するための環境整備」と三つに分かれており、それぞれの実行プログラムは、12本、6本、12本のように多岐にわたっており、今回は本プログラムを活用した本校の取り組み状況等を御紹介したい。

なお、御興味のある方は、東京都教育委員会のHPに全文が掲載されておりますので、「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム」で検索してください。

■ 1 「自ら未来を切り拓く力の育成」の取り組み

① 「TOKYO スマート・スクール・プロジェクト」の推進

このプロジェクトについては、昨年に都立足立西高校の丸茂校長先生が「会報42号」で詳しく解説して頂けていますが、時間経過ともにより具体的に変わった部分について述べたい。「C4th」（シーフォース）による統合型校務支援システムが本格稼働を始め、従来のシステムとの切り替えが年度途中にあり、各校とも教務や情報システム部を中心に移行が行われている。C4th自身も細かいシステム改修を日々行いながらの使用が各校で続いている。また、教員のICTスキルの差による校務遅滞を防ぐために、校内には「デジタルサポーター」が常駐して教員への支援を行っているが、そのサポーターの雇用形態が課題であり、早急に全校に都の会計年度職員化が望まれている。（派遣のサポーターには、契約上、学校側が突発の業務指示をすることが出来ないため、校長が上司となる都の職員化が望ましい。）

また、ICTリーダーの教員への授業時数軽減措置を実施するなど、まだまだ課題はあるが、人的支援についても都教育委員会の支援が実現している。

② 「国際交流・海外派遣の推進」

急速なグローバル化の波の中で豊かな国際感覚のある人材の育成が急務になっており、都教育委員会も令和5年4月に「グローバル人材育成部」という新規の部署を立ち上げて本格的に学校支援を行っている。

本校では、本プログラムの「専門高校生徒の海外派遣」と「多文化共生の推進」を活用してUAE、オーストラリアに多数の生徒を派遣した。その際に生徒が作成した工芸作品をお土産として持参し、現地で喜ばれたり、UAEで活躍している日本人デザイナーが現地での交流活動中に偶然にも本校の卒業生とわ

かり、その後のオンラインでの交流が計画されるなど参加できなかった生徒へも波及効果があった。また、今後はフランスとの交流も計画されるなど、以前より格段に海外に生徒を派遣できる環境が整ってきたが、明確な目的意識と都立唯一の工芸系専門高校の強みが、実施に大きく影響を与えた。

■ 2 「生徒目線に立った支援の充実」の取り組み

① 「不登校生徒・中途退学者に対する支援」

東京都が最も力を入れている施策の一つであり、教育だけでなく、オール都庁で横断的に子供・若者支援が実施されている。様々な支援体制が充実する中で、一人一台端末や生徒個人が所有するスマホを利用して「生徒のメンタルヘルスに関わるオンラインシステム」が開発されて「コンディションレポート」という名で運用が始まった。生徒は毎朝に体温とともにその日の気分や体調を入力して、相談したいことなども入力できるようになっており、心身の不調の早期発見に役立てるシステムである。現在スタート

したばかりで、毎日の生徒の入力者数も多くない。このシステムから報告のあった「要チェック者」は担任や養護教諭から当該生徒への声掛けをしている状況である。生徒への習慣化（定着）が課題である。

■ 3 「質の高い教育を実現するための環境整備」

① 「専門学科（職業学科）の活性化」

都立工業高校は令和5年4月より「都立工科高校」と名称変更が行われた。詳しくは、会報42号に丸茂校長先生から御報告があります。現在のところ都立工科高校は募集定員に満たない学校が増加しており、その学校の特色や取り組みを活かした学校PRを行い、応募者増加が東京都の工科高校の課題である。

今回は本校においての「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム」の活用について述べた。即効性のある施策は、課題解決よりも自校の強みを更に強化するために必要なプログラムの選択がカギであると感じた。

東京支部

日本工業大学駒場高等学校の現況について

日本工業大学駒場高等学校 教諭

渡邊 雄三

■ はじめに

本校は1907年（明治40年）に創立し、今年で116年を迎える学校である。時代とともに所在や学科編成は変わりながらも、長年にわたり東京都目黒区駒場の地にて工業高校として技術者育成に携わってきた。

■ 普通科教育へのシフト

学園内に日本工業大学があり、以前から生徒の進学希望が高かった。年々普通科の重要度が増していくことなどから、2006年に共学化、2008年に普通科を設置して現在の校名に改称するなど体制を整えてきた。そして2023年3月の卒業生をもって工業科の運営を終え、同年4月より普通科4コース（特進・理数特進・総合進学・文理未来）体制が完成し、これが形の上では最大の改革ともいえる。

■ 最難関大学受験指導の「日駒光風塾」

6年前より「圧倒的基礎学力の養成」をスローガンに、基礎基本の徹底を図っている。そのプログラムとして、正課の授業を大切にすることはもちろんのこと、HR内の単語テスト、長期休暇中の講習会、成績不振者向けの指名制補習、卒業生チューターによるサポート体制の構築、iPad（1人1台用意してもらっている）及び様々なアプリを活用しての指導など、数多くの学習・進学指導をとおしてG-MARCH進学を目標とした体制を整えてきた。

一方で、特進・理数特進コースを中心に、国公立大学や最難関私立大学への進学指導は十分とは言えなかった。そのため2017年に「日駒光風塾」を付属の塾として開塾し、7年目をむかえる。

その特長は主に次のとおりである。

- 在校生のみ入塾可。(選抜あり)
- 本校舎から徒歩3分の距離にあり、受験勉強に専念できる空間。
- 平日19:00~21:00の授業で、部活動参加後にも対応。
- 教材費を除き無料。
- 学校のカリキュラムや生徒の特徴を理解した、効率の良い授業を展開。

教える講師陣は本校の教員の他に、塾頭として塾経営の経験もある本学園の先生、基礎の大切さを身をもって知っている現役東大生をむかえている。結果として、2022年度光風塾卒業生15名中、国公立1名・早慶上理11名・G-MARCH20名が合格することができた。

■ ものづくり教育

現在のものづくり教育は普通科設置に合わせて新設した文理未来コースにおいて継承しており、これは各コースの特長ともなっている「総合的な探究の時間」内に組み入れているが、他コースが3単位なのに対し、文理未来では7単位と多くの時間を設けている。これまでの技術教育では、機械系・建築系・電気/電子系の3分野を中心に図面の読み書きとそれを加工する技術を習得していたが、以前にもまして「創るよるこび体験」に重きを置いた。具体的には「素材」に着目し、工業教育時のような金属や木材などにも触れながら内容を工芸に近づけ、言葉や音も素材の一つととらえて授業展開している。



1・2年次は、学年毎に6つのテーマを用意して1テーマにつき2コマ×4週、生徒10名前後の教員2名体制で進めており、3年次はある程度のテーマは提示しつつも生徒自身に選択させて半期約10週と従来の課題研究に近い形で取り組んでいる。

- ものづくり講座理論編/技術編
2単位(1年次)
俳句づくり / 箸製作 / スプーン製作 / オリジナルノート製作 / 箸袋製作と和食調理実習 / フェルトぬいぐるみ
- 応用文理 I 2単位(2年次)
作曲(ipadを使用した作曲) / クロスステッチの時計づくり / マグカップと小皿製作 / 椅子製作 / ネクタイピン製作 / コマの製作 / ラジオづくり
- 科学技術史 1単位(2年次)
- 応用文理 II 2単位(3年次)
住宅模型 / 浴衣制作 / 真空管アンプ / とんぼ玉制作 / スチームエンジンカー / マイクロロボット製作

■ 国語教育を中心に据える

上述の内容は諸改革のごく一部であるが、これまで検討・実施する過程で気づいたのは「国語教育」の大切さであった。そこで国語科を中心に「能動的読書体験プログラム」を設け、語彙力を高める他に知的活動の基礎となる思考力と情緒を育むようにしている。昨今話題のChatGPTの出現によって、今まで以上にリアルでの人との会話が重視されると予想されるため、より面白い結果につながるはずである。また、図書室を校舎の1階中央に移転・リニューアルもするなど、施設面での充実も進めている。



■ むすびに

ここ5年の入試広報活動で感じるのは、在校生と受験生・保護者から「面倒見が良い」などの評価をいただいていることです。これは長年培ってきた技術教育の過程で、手取り足取り教えるという校風によるものではないか。時代に合わせてこれからも教育改革を進めていくが、本校の真面目さを大切に一步一步着実に進めていきたいと考えている。

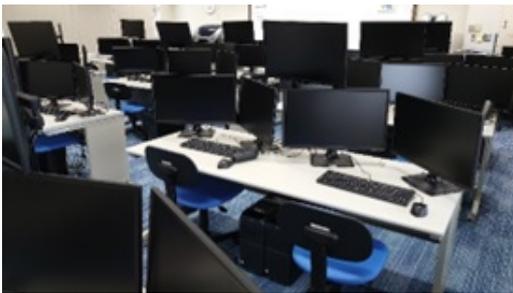
教育改革と平工業高等学校

■ 福島県の取り組み

福島県が掲げる「学びの変革」には

- 全ての子どもに必要な資質・能力を育成するため、一方通行の画一的な授業から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革する。
- 「子どもたち一人一人に必要な力を確実に育成していく」という本来の学校の役割を果たすことができるよう、学校の在り方の変革も同時に進める。

とあります。



■ 平工業高等学校では

これを受けて、本校では、イノベーションコースト構想の一端を担い、新たな産業集積に対応し、イノベーションをもたらす高度な技術と情報発信力を備えた次世代の工業人の育成を目指し、学校全体において、以下の取り組みを行っています。



【取組事例】

- 地域をけん引する産業人材の育成
地域を支える多くの地域企業と連携し、産業や先端技術への理解を深める。さらにはベンチャー企業とも連携し、高度な技術だけではなくアントレプレナーマインドの育成。
- マーケティング、プレゼンテーションスキルの向上
次世代工業人の育成に向けて、マーケティング業界のトップリーダーを招聘し、マーケティングの知識、プレゼンテーションスキルの育成。
- 地域の魅力発信活動
プレゼンカススキルで培った知識を活用し、地域産業の魅力及び学校の取組を対外的に発信する力の育成。

また工業各科では、新カリキュラムにおいて新しい教材を導入し、イノベーションコースト構想の目標に掲げる時代に即したエンジニアの育成を目標に日々取り組んでいます。

| 学科名 | 新規導入機器 |
|---------|-----------------|
| 機械工学科 | 放電加工機 |
| | プラズマ切断機 |
| 電気工学科 | 再生可能エネルギー実験装置 |
| | ・太陽光発電装置 |
| | ・風力発電装置 |
| 制御工学科 | 産業ロボットスキル評価システム |
| | シーケンス制御作業ユニット |
| 土木環境工学科 | 循環式管路実験装置 |
| | CBR 試験機 |
| | 軸傾斜横切盤 |
| 情報工学科 | E-ステーション |
| | AI 学習用ワークステーション |

表1 イノベーションコースト構想導入機器例

また、子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けての GIGA school 構想に基づき、教員側の取り組みとして、

校務処理の ICT 化をめざして、企業でも導入している MicroSoft Teams（グループウェア）、PowerAutomate などを活用して、生徒の出欠連絡システムの構築、簡易発議（稟議書）処理の構築をしている。生徒の出欠連絡システムについては、今後の実践で、ビルドアップし、より良いものへの変遷をする段階である。簡易発議（稟議書）処理においては、同様のソフトで、開発している途中である。また、教材の DX 化、具体的には板書内容を PowerPoint で表示することで、生徒一人一人が、考える時間を創出する。その際に、動きのあるものについては、アニメーション機能を使用し、より理解しやすい教材を目指して構築している。



情報工学科ではこのほかに、電気回路などについては、qucsstudio、LTSPICE などのシミュレータを

活用し、計算結果が合っているかどうかを自らシミュレートし確認できるようにする。製図では、3DCAD を使用し、2D では分かりづらかった内容についても、容易にわかるようになることを目指すとともに、課題研究などで、必要な部品を設計、製作できるように、デュアルヘッド 3D プリンタ、光学式 3D プリンタを活用している。



教育界において、働き方改革、GIGAschool、新教育課程と、大きな変革を迎えています。いま我々ができること。やらなければいけないことを理解し、現場においては、生徒のためにはどうしたらいいのかを日々検討していますが、この荒波を乗り越え、多くの優秀な工業人を育成し続けていきたいと考えております。



令和4年度・5年度の活動について

令和4年度

■ 令和4年度事業報告

- ・2月14日 事務局打合せ
事業として名簿整理の実施、3年続けての総会開催見送りは避けることなどを確認した。
- ・4月30日 役員会
総会のリモート開催、講演会の開催、会報42号の発行、教職校友会卒推薦の実施、名簿整理の実施などを決定した。
- ・6月25日 令和4年度総会および講演会
総会をリモート形式で開催し、東京電機大学理事・工学部先端機械工学科教授の三井和幸先生による「新素材EAMを用いたリハビリテーション・トレーニング装置」の講演会を開催した。
- ・7月7日 会報42号の発行
「新学習指導要領への各県支部の取り組み」を特集した会報42号を発行した。

教職校友会卒推薦入試制度への協力

- ・9月9日 教職校友会卒推薦調整会議
全国24校から応募があり、42名の推薦を承認した。入試センターを通じて各学部でも承認され、42名全員が出願し合格した。

■ 令和4年度会計報告ならびに会計監査報告

令和5年6月24日

令和4年度 東京電機大学教職校友会 決算報告

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|--------|---------|-------|---------|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 |
| 前年度繰越金 | 672,926 | 会議費 | 21,800 |
| 会員会費 | 52,959 | 事務経費 | 118,984 |
| 雑収入 | 20,000 | 予備費 | 0 |
| | | | |
| | | 次期繰越金 | 605,101 |
| 合計 | 745,885 | 合計 | 745,885 |

一般社団法人東京電機大学校友会から会報発行費、通信費の援助をいただいています。

会計幹事 森田 訓敏
高橋 勉

厳正に監査し、相違ないことを認めます。
令和5年4月1日

会計監査 荒 繁勝
大田 智雄

令和5年度

■ 令和5年度事業計画

- ・総会および講演会開催
対面形式による総会および講演会の会場開催を計画する。
総会・講演会は会場参加が叶わない会員のためオンライン配信を計画する。
- ・令和5年度会報（第43号）の発刊
各支部等に協力を要請して読み物としての充実を図る。
特集記事のテーマは「教育改革—各支部・各校の取り組み」とする。
- ・会員情報調査・メールアドレスの収集
随時情報収集に務める。
- ・支部活動への協力
各支部の総会開催などに協力する。
- ・教職校友会卒推薦入試制度への協力
例年通り実施する。
- ・役員会・事務局打合せの開催
事業の計画・実行のための会議・打合せを随時開催する。

■ 令和5年度予算（案）

令和5年度 東京電機大学教職校友会 予算(案)

(令和5年4月1日より令和6年3月31日まで)

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|--------|---------|------|---------|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 |
| 前年度繰越金 | 605,101 | 会議費 | 25,000 |
| 会員会費 | 70,000 | 事務経費 | 25,000 |
| 雑収入 | 0 | 予備費 | 625,101 |
| | | | |
| 合計 | 675,101 | 合計 | 675,101 |

このほか、東京電機大学校友会、東京電機大学からの援助が予定されています。

令和5年度 顧問・役員・幹事一覧

* 郵送による確認を実施しましたが、情報不足のための誤りを危惧しています。情報をお寄せください。(編集担当)

| | | | | | |
|----|------------------------|--------|------|--------------------|--------|
| 顧問 | 学校法人東京電機大学理事長 | 石塚 昌昭 | 会長 | 東京都立工芸高等学校長 | 杉浦 文俊 |
| | 東京電機大学学長 | 射場本 忠彦 | | | |
| | 一般社団法人東京電機大学校友会理事長 | 上西 栄太郎 | 副会長 | 栃木県立那須清峰高等学校 | 高松 秀和 |
| | (元)群馬県立伊勢崎工業高等学校長 | 町田 峯勝 | | 茨城県立勝田工業高等学校 | 藻垣 祐郎 |
| | (元)群馬県立藤岡工業高等学校長 | 中曾根 喬 | | 東京都立足立西高等学校長 | 丸茂 聡 |
| | (元)山形県立長井工業高等学校長 | 山口 康夫 | | 埼玉県立川口工業高等学校副校長 | 田中 克典 |
| | (元)東京都立港工業高等学校長 | 村上 尚 | | (元)東京都立工業高等専門学校教授 | 前田 治 |
| | (元)神奈川県立神奈川工業高等学校長 | 久保倉 清 | | 神奈川県立向の岡工業高等学校教頭 | 嶋村 圭一 |
| | (元)静岡県立静岡工業高等学校長 | 小椋山 昇 | | 山梨県立都留奥館高等学校 | 田中 祐司 |
| | (元)埼玉県立春日部工業高等学校長 | 星野 時二 | | (元)静岡県立科学技術高等学校校長 | 松村 照司 |
| | (元)福島県立小高工業高等学校長 | 井上 精三 | | 千葉県立京葉工業高等学校 | 森本 圭一 |
| | (元)東京都立練馬工業高等学校長 | 小池 敏男 | 幹事 | 神奈川県立横須賀工業高等学校 | 小室 卓也 |
| | (元)東京電機大学高等学校教頭 | 中村 隆一 | | 東京電機大学中学・高等学校 | 古城 仁 |
| | (元)東京都立府中工業高等学校長 | 平林 洋志 | | 東京電機大学中学・高等学校 | 河野 吉伸 |
| | (元)国立東京工大付属工業高等学校副校長 | 青木 輝寿 | | 東京電機大学中学・高等学校 | 米山 裕 |
| | (元)東京都立武蔵野北高等学校長 | 小原 政敏 | | | |
| | (元)群馬県立高崎工業高等学校長 | 加藤 通顯 | 庶務幹事 | 東京都立蔵前工科高等学校 | 渡邊 博之 |
| | (元)東京電機大学中学校・高等学校長 | 高久 廣毅 | | 埼玉県立川越工業高等学校教頭 | 高橋 勉 |
| | (元)関東第一高等学校長 | 吉村 正昭 | | 千葉県立千葉工業高等学校 | 清崎 起代則 |
| | (元)神奈川県立神奈川工業高等学校長 | 梅田 政勝 | | | |
| | (元)東京都立多摩工業高等学校長 | 橋本 三男 | 会計幹事 | 東京都立墨田工科高等学校主任教諭 | 森田 訓敏 |
| | (元)福島県立小名浜高等学校長 | 田仲 敏晃 | | 埼玉県立川口工業高等学校教諭 | 後藤 真理子 |
| | (元)福島県立湯本高等学校長 | 辺見 広一 | | | |
| | (元)静岡県立静岡工業高等学校長 | 佐藤 義雄 | 会計監査 | 東京都立杉並工科高等学校副校長 | 荒 繁勝 |
| | (元)関東第一高等学校長 | 池田 二郎 | | 東京都立足立工科高等学校主幹教諭 | 大田 智雄 |
| | (元)東京電機大学高等学校教頭 | 見崎 正行 | | | |
| | (元)埼玉県立久喜工業高等学校長 | 新井 誠 | 特別会員 | (元)静岡県立清水工業高等学校教頭 | 大越 和夫 |
| | (元)静岡県立藤枝北高等学校長 | 山口 房夫 | | (元)東京電機大学高等学校教諭 | 前嶋 万人 |
| | (元)埼玉県立騎西高等学校長 | 廣瀬 成一 | | (元)羽黒高等学校教頭 | 松田 弘義 |
| | (元)茨城県立日立工業高等学校長 | 高畑 啓治 | | (元)静岡県立浜松工業高等学校教頭 | 松本 恒彦 |
| | (元)神奈川県立神奈川総合産業高等学校副校長 | 平野 隆士 | | (元)千葉県立京葉工業高等学校 | 山本 義彦 |
| | (元)山梨県立谷村工業高等学校長 | 教野 均 | | (元)栃木県立真岡工業高等学校 | 小堀 英雄 |
| | (元)東京都立蔵前工業高等学校長 | 豊田 善敬 | | (元)大森学園高等学校 | 加藤 三郎 |
| | (元)東京電機大学高等学校教頭 | 津村 栄一 | | | |
| | (元)尚志高等学校副校長 | 網田 雄治 | | | |
| | (元)群馬県立桐生工業高等学校校長 | 樋口 高則 | | | |
| | (元)東京都調布市立第四中学校長 | 藤倉 正道 | | | |
| | (元)東京電機大学中学校・高等学校長 | 向芝 京太 | | | |
| | (元)埼玉県入間市立藤沢中学校長 | 佐藤 文憲 | | | |
| | (元)神奈川県立商工高等学校副校長 | 鑿場 博 | | | |
| | (元)東京都立足立工業高等学校副校長 | 瀧澤 隆司 | | | |
| | (元)東京都立蔵前工業高等学校長 | 三神 幸男 | | | |
| | (元)山梨県立甲府工業高等学校校長 | 手塚 幸樹 | 事務局 | 東京都立蔵前工科高等学校 | 渡邊 博之 |
| | (元)埼玉県立大宮工業高等学校長 | 清水 雅己 | | 埼玉県立川越工業高等学校教頭 | 高橋 勉 |
| | 一般社団法人東京電機大学校友会事務局長 | 友常 岳浩 | | 千葉県立千葉工業高等学校 | 清崎 起代則 |
| | | | | (元)東京電機大学中学校・高等学校長 | 向芝 京太 |

令和5年度 教職校友会会員数 都道府県住所別 学校種別分類

| | OB | 高校 | 養護 | 中学 | 小学 | 高専 | 専門学校 | その他 | 大学 | 短大 | 非常勤 | 計 |
|------|-----|-----|----|-----|----|----|------|-----|----|----|-----|------|
| 北海道 | 4 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| 青森県 | 3 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| 岩手県 | 3 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 7 |
| 宮城県 | 4 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 秋田県 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 山形県 | 4 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 福島県 | 8 | 17 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 31 |
| 茨城県 | 15 | 22 | 2 | 7 | 1 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 51 |
| 栃木県 | 9 | 14 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 30 |
| 群馬県 | 14 | 21 | 0 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 45 |
| 埼玉県 | 70 | 132 | 5 | 50 | 8 | 0 | 6 | 2 | 1 | 0 | 10 | 284 |
| 千葉県 | 69 | 50 | 1 | 26 | 0 | 1 | 0 | 4 | 1 | 0 | 2 | 154 |
| 東京都 | 82 | 125 | 4 | 25 | 1 | 1 | 4 | 4 | 1 | 0 | 3 | 250 |
| 神奈川県 | 60 | 42 | 0 | 20 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 126 |
| 新潟県 | 5 | 7 | 1 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 |
| 富山県 | 6 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 石川県 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 福井県 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 山梨県 | 6 | 11 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 21 |
| 長野県 | 3 | 6 | 1 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 |
| 岐阜県 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 静岡県 | 19 | 17 | 0 | 12 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 52 |
| 愛知県 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 三重県 | 2 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| 滋賀県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 京都府 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 大阪府 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 兵庫県 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 奈良県 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 和歌山県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 鳥取県 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 島根県 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 岡山県 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 広島県 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 山口県 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 徳島県 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 香川県 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 愛媛県 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 高知県 | 3 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 福岡県 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 佐賀県 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 長崎県 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 熊本県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 大分県 | 3 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 8 |
| 宮崎県 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 鹿児島県 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 沖縄県 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 4 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 計 | 416 | 495 | 15 | 198 | 14 | 5 | 16 | 19 | 4 | 0 | 23 | 1205 |

65歳を超えた方はOBとして集計してあります。65歳以前に退職された方、65歳を超えて現職の方はご連絡ください。

東京電機大学教職校友会 会則

第1条 本会は、東京電機大学教職校友会と称し、昭和43年8月1日設立。事務局を東京都足立区千住旭町5番におく。

第2条 本会は、学校法人東京電機大学及び、一般社団法人東京電機大学校友会と緊密に連繋し、その発展に協力し、会員の資質の向上と親睦をはかることを目的とする。

第3条 本会は、次の会員をもって組織する。

- 一、正会員 東京電機大学の経営する各学校の卒業生で、現に小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、盲・ろう・養護学校、高等専門学校、専修学校、その他の教育機関に勤務する者。
- 二、特別会員 本会の趣旨目的に賛同する者で役員会の承認を得た者。

2. 本会に次の顧問をおく。

- 一、東京電機大学の経営する各学校の学長および校長。
- 二、本会に特に功労のあった者で、役員会が推薦する者。

第4条 本会に次の役員をおく。ただし任期は2年とし、再任を妨げない。

| | | | |
|------|-----|------|-----|
| 会 長 | 1名 | 副会長 | 若干名 |
| 幹 事 | 若干名 | 庶務幹事 | 2名 |
| 会計幹事 | 2名 | 会計監査 | 2名 |

2. 会長及び副会長は会員のうちから役員会が選出する。
3. 幹事は各支部ごとに支部長の推薦するものとする。

第5条 会長は、本会を代表し会務を総理する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は会長の職務を代行する。
3. 役員および幹事は、会長の命を受けて会務を処理し、会計監査は会計を監査する。

第6条 本会の会合は、次のとおりとする。

- 一、総会 毎年一回開き、会務報告その他必要事項を審議する。
- 二、役員会 必要に応じて会長が招集し、会

務を処理する。

- 三、その他の会合 会長が必要と認める場合は、前二号以外の会合を召集することができる。

第7条 本会の目的を達成するための経費は会費、補助金および寄付金による。

2. 会費は、正会員1名につき年額1000円とする。ただし、会長が特に必要があると認める時は役員会にはかり、臨時会費を徴収することができる。
3. 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第8条 第8条 この会則は、総会において出席会員の過半数の同意により変更する事ができる。

1. この会則は、昭和43年8月1日より施行する。
2. 本会の運営のために必要な細則は役員会にはかり、会長が別に定める。
3. 昭和47年2月20日 会則の一部を変更し、施行する。
4. 昭和48年6月11日 会則の一部を変更する。
5. 昭和50年3月31日 会則の一部を変更する。
6. 平成6年12月10日 会則の一部を変更する。
7. 平成8年6月22日 会則の一部を変更する。
8. 平成27年6月22日 会則の一部を変更する。

【申合せ事項】

1. 本会の目的を達成するため、都、道、府、県に都道府県支部会を設ける事ができる。各支部会の会則は、各支部において別に定める。
2. 各支部会は都道府県の支部長を長とし、必要に応じ支部会内に役員を設け、支部会の事業を行うものとする。支部長は本会の副会長とする。
3. 本会が全国組織の会であるため、総会に多数の出席が困難と予想されるときは、役員会の原案を書面連絡で審議して決定することができる。

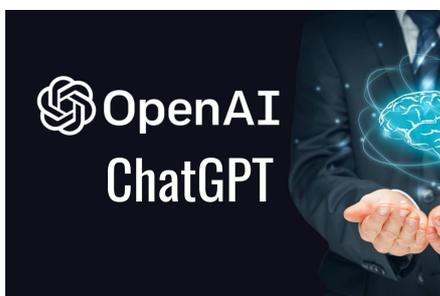
隠[◆]者の夕暮れ

元東京電機大学中学校・高等学校 校長

向芝 京太

■ チャット GPT の光と影

昨年 11 月に公開されたチャット GPT (ChatGPT: Chat Generative Pre-trained Transformer) は、瞬く間に普及し、現在世界の利用者は 1 億人以上に上るといふ。日本でも、3 月以降は新聞等で話題となることが急増、その功罪が議論されるようになっていきます。



チャット GPT は、インターネットに関する様々なアプリのときと同じように、その普及を止めることはできなでしょうし、教育現場にも確実に入り込んでいくことでしょう。教育の現場からは隠[◆]者だが、チャット GPT と教育との関わりについて感じることを記してみたいと思います。

■ 教育における利点

チャット GPT は、質問を入力すると、あたかも会話しているように、答を返してくれる。学校教育でも、さまざまな利点が考えられるだろう。

1. 個々の学生に合わせた学習をサポートすることができる。生徒が質問したり、疑問を解決するために即座に応答することができる。
2. 24 時間利用可能で、学生はいつでもチャット GPT を利用することができ、教室内でのみアクセスできる従来の教材とは異なり、学生は自宅や外出先でも学習を続けることができる。
3. チャット GPT は外国語学習においても役立つ。生徒は自分の学習レベルに合わせた会話や文法の練習ができ、リアルな対話に近い体験を得ることができる。

……

■ 英語は学ばなくてもいい時代がきたのか

チャット GPT はリアルタイムで翻訳もしてくれる。京都大の金丸敏幸准教授は、朝日新聞のインタビューに、次のような主旨を答えている。

英語の基礎は大事。引き続き、小中高での学習は続くだろう。ただ、「(大学では) 必修科目でなくてもいいのではないか」という議論が、一部の大学で始まった。(略) 人間には見極める力こそが必要だ。英語の基礎が分かっていたら、大学で勉強するような専門的な英語は必要なくなるかもしれない。

— 中学や高校の英語教育にも影響はあるか。

大いにあると思う。大学で英語が必修でなくなれば、大学入試に影響を与えるかもしれない。(略) 受験勉強のためだけに英語を勉強したり、英語学習に時間を取られて本当に自分が学びたい分野に手が回らなかったり。そのような自分の時間を犠牲にして英語を学ぶ必要性がなくなる可能性はある。

— 英語を学ぶこと自体も揺らぐのか。

英語がグローバルスタンダードであることは変わらない。(略) チャット GPT は道具。平均的なコミュニケーションは代替できても、それ以上の知的作業は人間の力が必要だ。

(令和 5 年 6 月 11 日 (日) 朝刊、一部を抜粋)

■ 分かるということ

私は数学の教員でした。生徒は、数学上の定理を、証明を追い、説明を聞き、分かったつもりになります。しかし、この段階は「表面的な理解」で、この段階の知識はすぐに忘れ去られます。しかし生徒には、理解が深まる時があります。定理の内容を自分の言葉で説明したり、様々な問題解法へ定理の適応を繰り返していくと、あるときその定理が「腑に落ちる」ことがあります。定理、広くは知識の理解では、「なるほどそういうことだったのか」と気づくとき、「表面的な理解」が「内面的な理解」に深まる時があるのです。先生方も、生徒のこのような変化を経験されているのではないのでしょうか。

生徒にとって大切なことは、何から情報を得たのかではなく、それをいかに内面化できたかなのです。

こんなことも思います。ジャック・デリダは、エクリチュール（書き言葉）とパロール（語り）の違いによって言語の可能性を鮮やかに描き出しました。そのキーワードは「作家の死」です。エクリチュールに話者は存在せず、パロールのように意図を聞くことはできません。話者の不在ということが「作家の死」ということです。話者が不在であっても、エクリチュールでは語の連なりからだけで「意味」を受け取ることができる。デリダは、それが言語の一般可能性であるというのです。

テキストが与えられたとき、それが人間によって書かれたものか、チャット GPT が出力したものか、それを問うことは、これからは本質的でなくなるように感じています。テキストから意味をくみ取り、いかに内面化するか、そのことこそが重要なのではないのでしょうか。

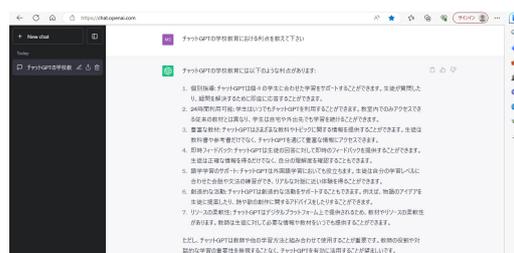
テキストを前にしたとき、テキストだけに限りませんが、自分の事として深く読み込み、その意味を内面化する態度、能力、それが大切なのではないのでしょうか。

チャット GPT の出現によって、これからの時代、そのような態度と能力を持つ生徒の育成がますます大切になる、隠^レ者はそのような事を考えて日々を過ごしています。

■ ...ところで

先に教育におけるチャット GPT の利点として挙げたものを、皆さんはどう思われましたか。的を射ていましたか。

実はこれは、「チャット GPT の学校教育における利点を教えてください」という質問に対する、チャット GPT の回答だったのです。



チャット GPT の応答画面

「彼」（「彼女」かな）の回答はこう締めくくられていました。

ただし、チャット GPT は教師や他の学習方法と組み合わせて使用することが重要です。教師の役割や対話的な学習の重要性を無視することなく、チャット GPT を有効に活用することが望ましいです。

令和5年7月

会員各位

東京電機大学教職校友会

会費納入のお願い

会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。皆様には日頃より東京電機大学教職校友会の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本会は、教職に携わっていらっしゃる卒業生のなかで事務局が把握できた方々を会員とさせていただいている組織です。したがって、必ずしも皆様の入会意思を確認させていただいたり、申込み手続きによる処理などをとることはいたしておりません。しかし、全国各地の教壇で活躍される卒業生は、母校にとって大切なネットワークであることから、学校法人東京電機大学および一般社団法人東京電機大学校友会は、本会の活動に対して大きな期待を寄せております。教職校友会の活動は、微力ながらも母校東京電機大学および東京電機大学校友会と一体となり、学園発展への一助をなすものと確信しております。

本会の活動に当たっては、学校法人東京電機大学および一般社団法人東京電機大学校友会より多大の援助を頂いてはおりますが、この度は年会費の振込用紙を同封させていただきました。会費の納入は会員の皆様にご無理をお願いするものではございませんが、教職校友会の趣旨をご理解いただきまして、多くの皆様にご協力を賜りたくお願い申し上げます。年会費は1000円となっております。

なお、自動引落としで年会費を納入して頂いている皆様にも、発送手続きの処理上、振込み用紙を同封いたしました。失礼の段お詫び申し上げます。

末筆でございますが、会員の皆様のますますのご活躍をご祈念申し上げます。

編集後記

令和元年末に発生が確認された新型コロナウイルスによる社会の制約は、令和5年5月、世界的にはWHOの「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」宣言の終了、国内的には新型コロナウイルス症の5類感染症への位置付け変更によって、大きく取り払われることとなりました。新型コロナウイルスの脅威がなくなった訳ではありませんが、社会は明るさを、そして学校も本来の形を取り戻していくことでしょう。

令和5年度会報第43号をお届けいたします。

校務多忙な中、今年度の会報も各支部・先生方にご協力いただき、発行することができました。感謝申し上げます。

会報はこれからも、年に一度同じ教職に就く者の絆を思い出していただけるよう、発行を続けていきます。会員の皆様のご支援をお願いいたします。

編集担当 向芝 記

令和5年度 会報 第43号

発行日 令和5年7月7日

東京電機大学教職校友会

事務局 一般社団法人東京電機大学校友会内

〒120-8551

東京都足立区千住旭町5番 東京電機大学 1号館2階

電話番号 03-5284-5140

FAX番号 03-5284-5187

eメール kouyukai@jim.dendai.ac.jp

郵便振替口座 00100-4-71400